

第四六回 内村鑑三研究会のご案内

日時 二〇二五年九月十五日（月曜日・敬老の日） 一四時～一七時

開催方法 対面とZoomのハイブリッド方式として開催

会場は今井館聖書講堂（東京都文京区本駒込六―一一―一五）

発表

『韓国無教会双書（全9巻・別巻1）』（二〇二四年）刊行について

森山 浩二

（韓国無教会研究者）

〈発表要旨〉今から約一〇〇年前、大日本帝国の植民地であった朝鮮人留学生たちが内村鑑三の今井館聖書講堂での聖書講筵に列し、一九二七年七月『聖書朝鮮』という聖書雑誌を刊行、朝鮮における無教会が始まった。その流れをくむ弟子たちによって、紆余曲折を経て、最終的には金教臣と宋斗用の著作から編集・翻訳し『韓国無教会双書』（全9巻・別巻1巻）として、キリスト教図書出版社の岡野行雄さんとの生前の約束によって、皓星社から一括して出版されました。日韓キリスト教、特に無教会の交流という点から見て貴重な書籍であり、監修者として最初から約三〇年関わった者として、出版に至る経緯と双書の内容・意義について紹介する。

内村鑑三の十字架の信仰——贖罪信仰とその特質

千葉 眞

（『内村鑑三研究』編集委員）

〈発表要旨〉若き内村鑑三は、アーマスト大学に留学した際、シーリー総長と出会い、その教えと対話を通じてその後の生涯を導く十字架の信仰（贖罪信仰）を与えられた。本発表は、内村がその一生を通じて、この十字架の信仰をどのように理解し、それを人生の中心的真理として生きようとしたのか、その展開と深化の軌跡を跡づけようとする試みである。彼の贖罪信仰はやがて復活信仰に結実し、さらに再臨信仰へといたるわけだが、この三つの信仰の結合がいかに彼の人生の歩みにおいて必然として受け入れられたのかを時系列的に彼の諸著作を繙きながら解明してみたい。さらに彼の若き日に体得した贖罪信仰の特質についても考えてみたい。

司会 岩野祐介（『内村鑑三研究』編集委員、関西学院大学神学部教授）

資料・通信費 一〇〇〇円

申し込み Zoomで参加ご希望の方は九月一二日までにメールで左記までお申し込みください（氏名、TEL、メールアドレス明記）。折り返し当日ログインするURLと資料・一〇〇〇円の参加・通信費振込口座の情報をお送りします。対面での参加の方は申し込み不要。会場に直接お越しください。

千葉 眞 メールアドレス chibas@icu.ac.jp

主催 『内村鑑三研究』編集委員会（岩野祐介、柴田真希都、ゾンターク・ミラ、高木謙次、千葉 眞、

ラフエイ・ミシエル、渡部和隆）

問い合わせ 千葉 眞 メールアドレス chibas@icu.ac.jp

今井館教友会気付『内村鑑三研究』編集委員会宛（郵便にて）